



月刊 るし

6月号

《今月の表紙》

高3 藤井 桜

「オムライス」

道展 U21 展 入選作品

今号の内容

【特集】

- 美術 「中2 ポスター」
- 美術 「中3 スクラッチ」
- 国語 「高1 漢詩レポート」
- 国語 「高1 小論文」

「中2 ポスター」

自分が今一番伝えたいことを、キャッチコピーとイラストで表現します。何を言葉にして、何を絵にするのか…。

試行錯誤の後に画面構成を決めて描き上げました。

社会問題について訴えるものや、青春の想いなど、一人のメッセージを読み取ってください。



Kさんの作品



Kさんの作品



Hさんの作品



Nさんの作品



Nさんの作品



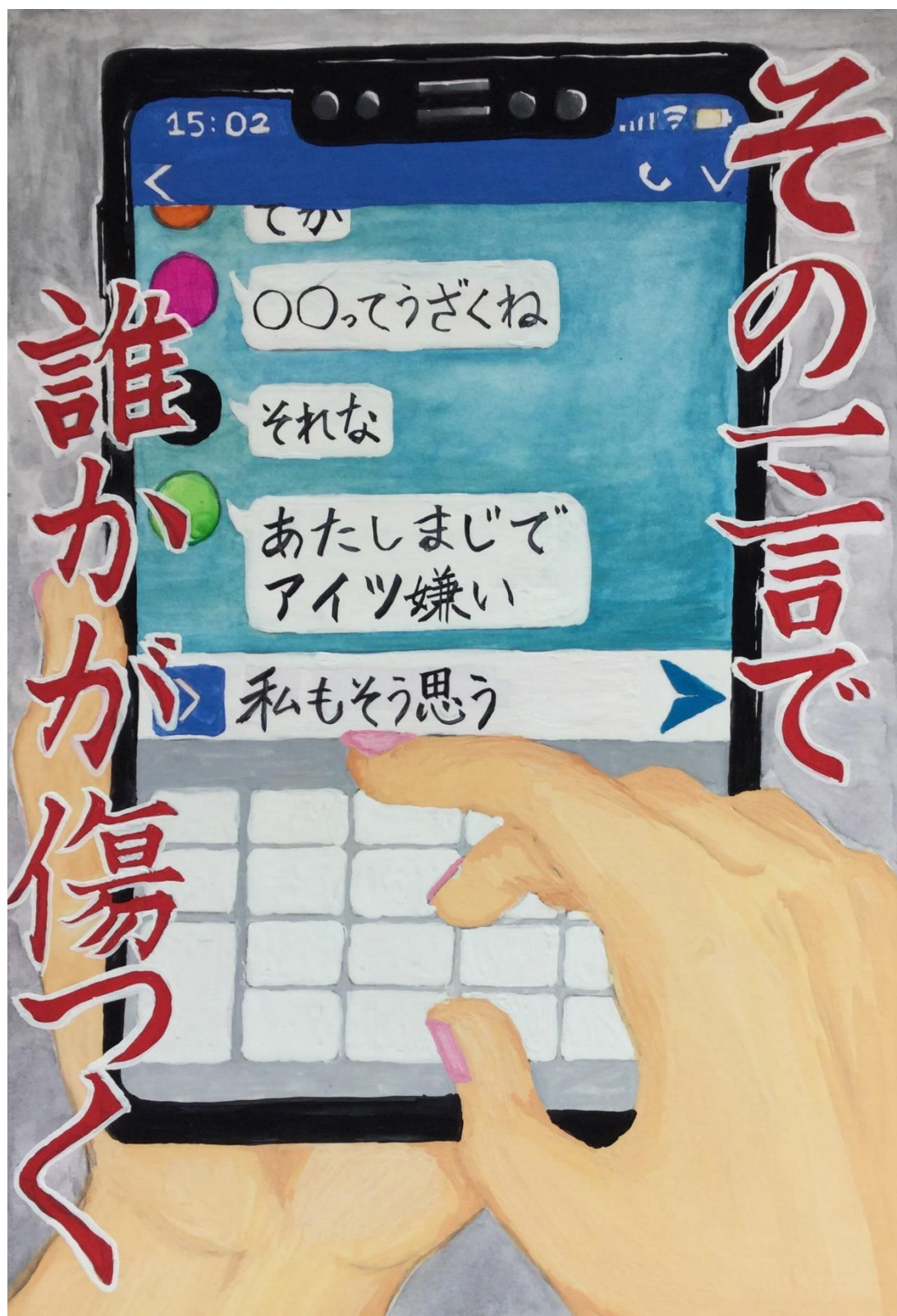
Ｙさんの作品



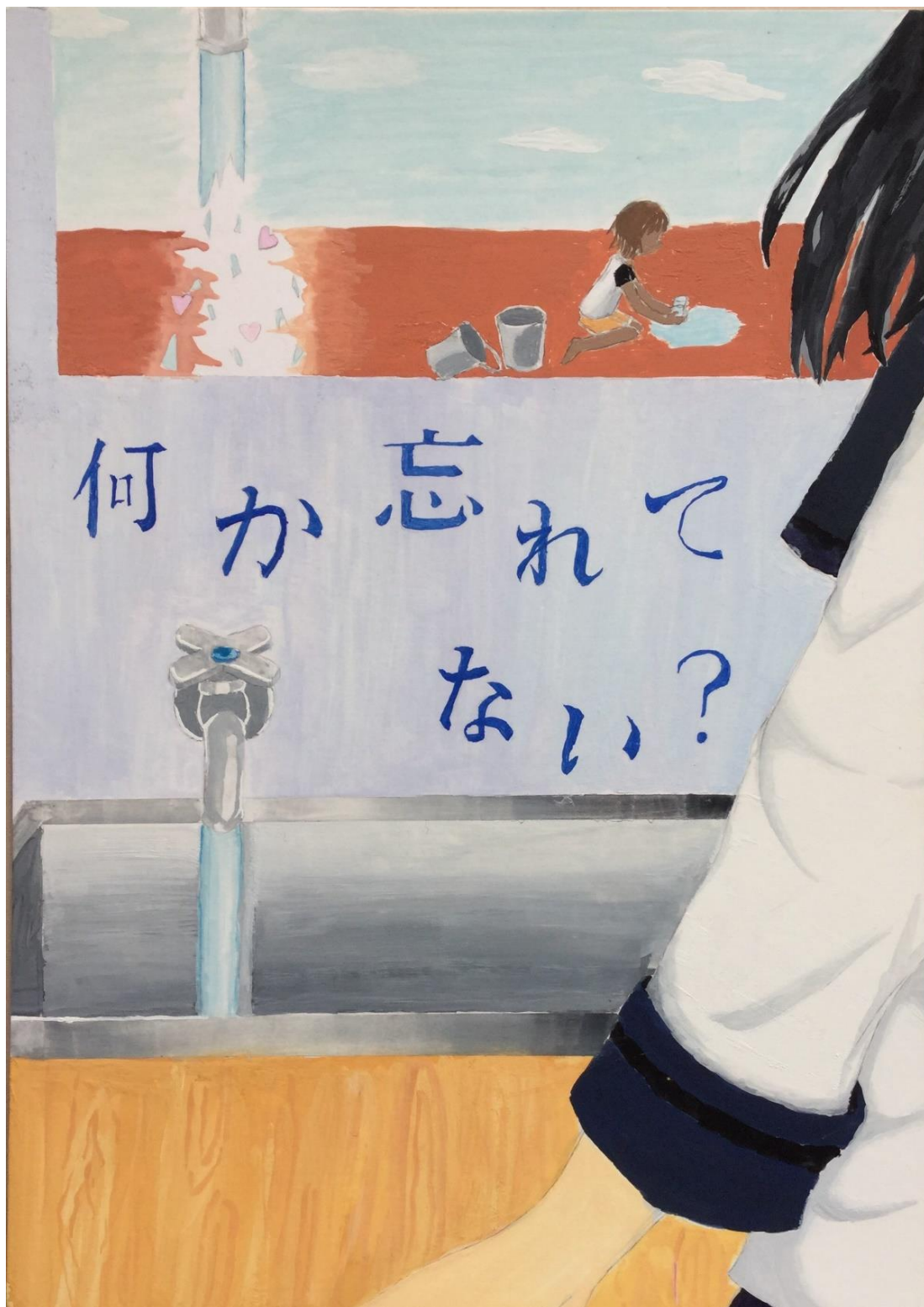
Tさんの作品



〇さんの作品



S さんの作品



Hさんの作品



Tさんの作品



うさんの作品

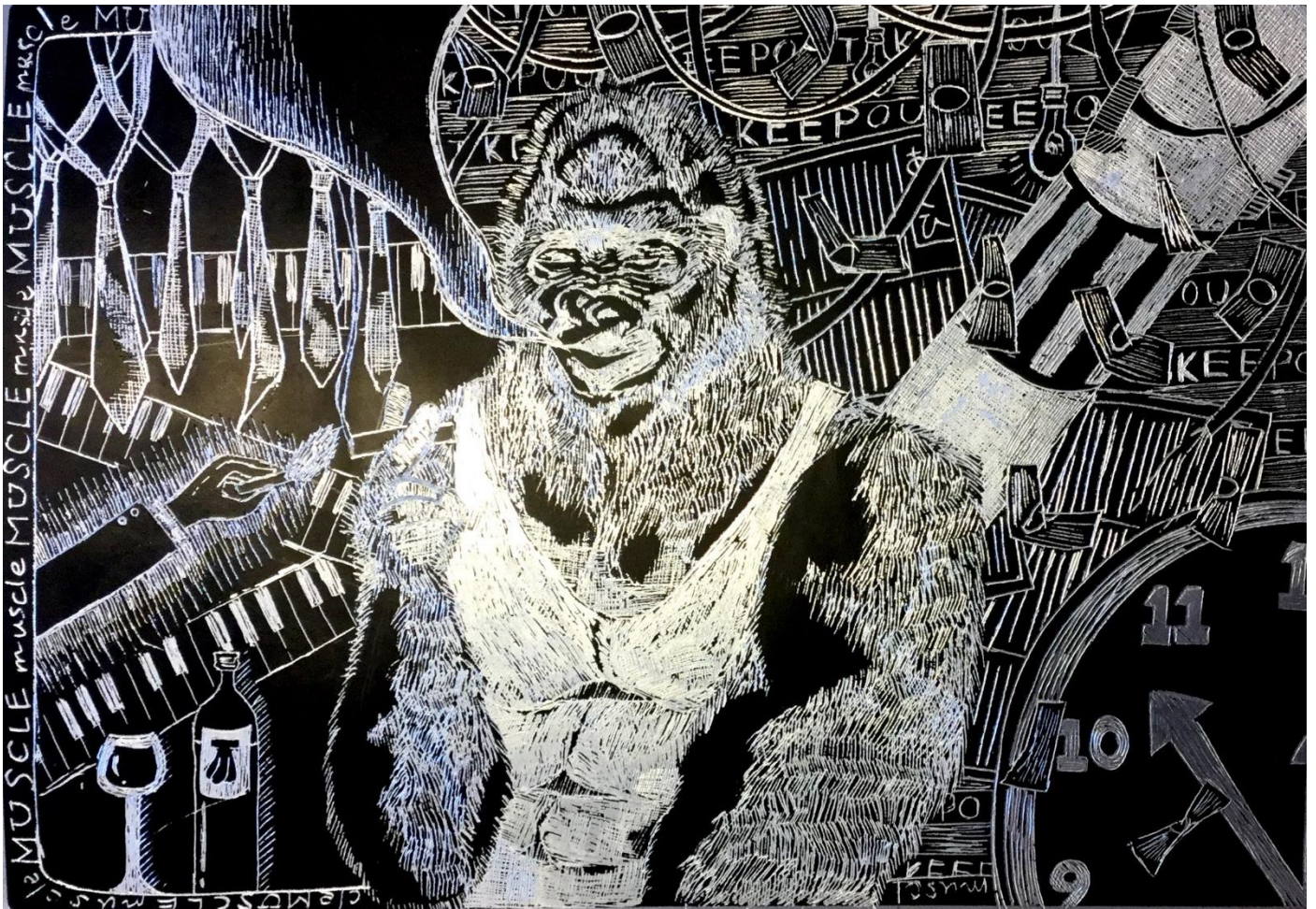
「中3 スクラッチ」

中学校最後の作品として、それぞれの想像力を存分に生かした空想画を描きました。

黒い画面をニードルで削り出していくと、下から銀色の下地が出てくるボードを使っています。点描やハッチングといった技法で少しずつ描き出します。最後の作品に想いを込めて、細かなタッチを重ねました。



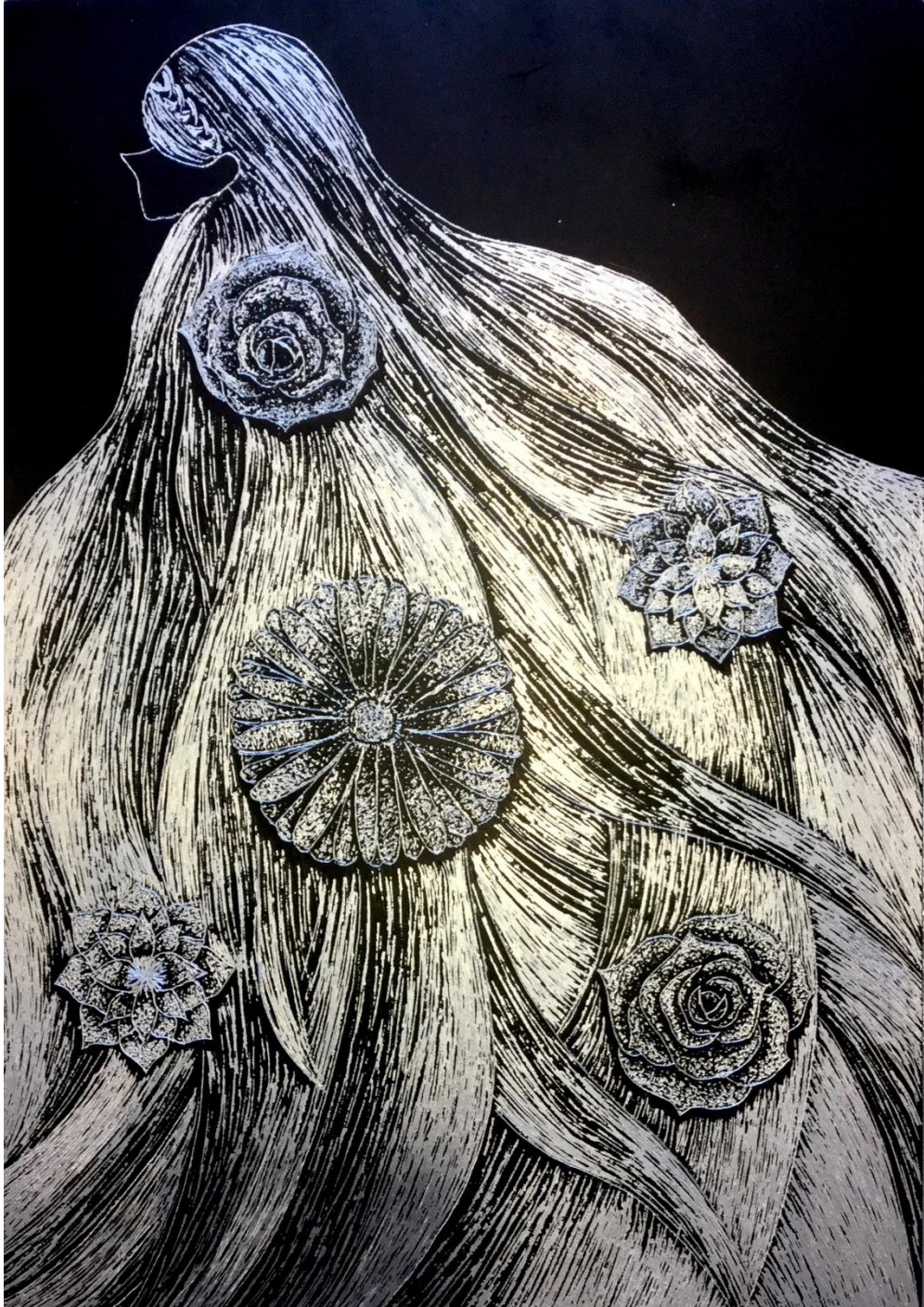
A さんの作品



N さんの作品



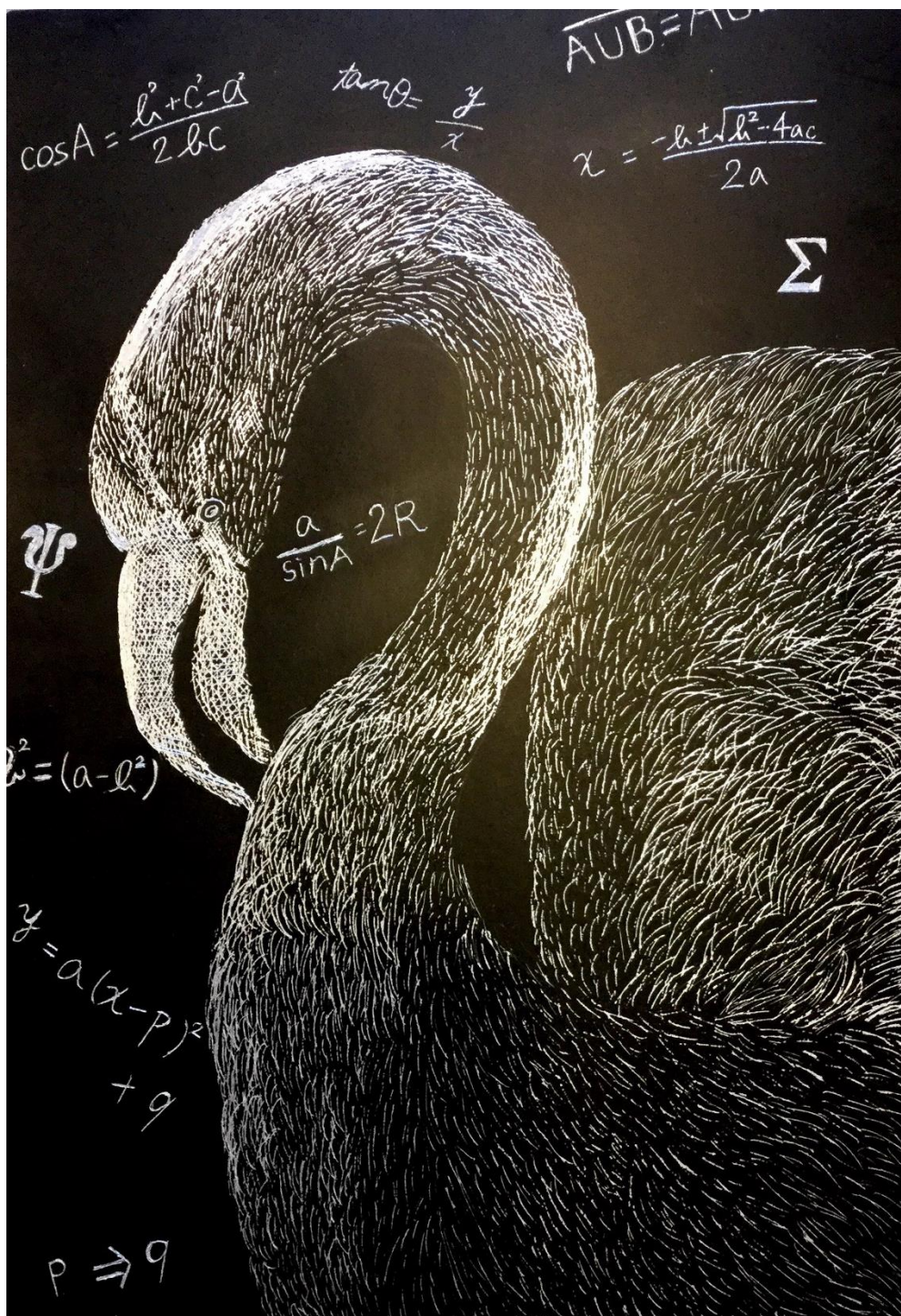
K さんの作品

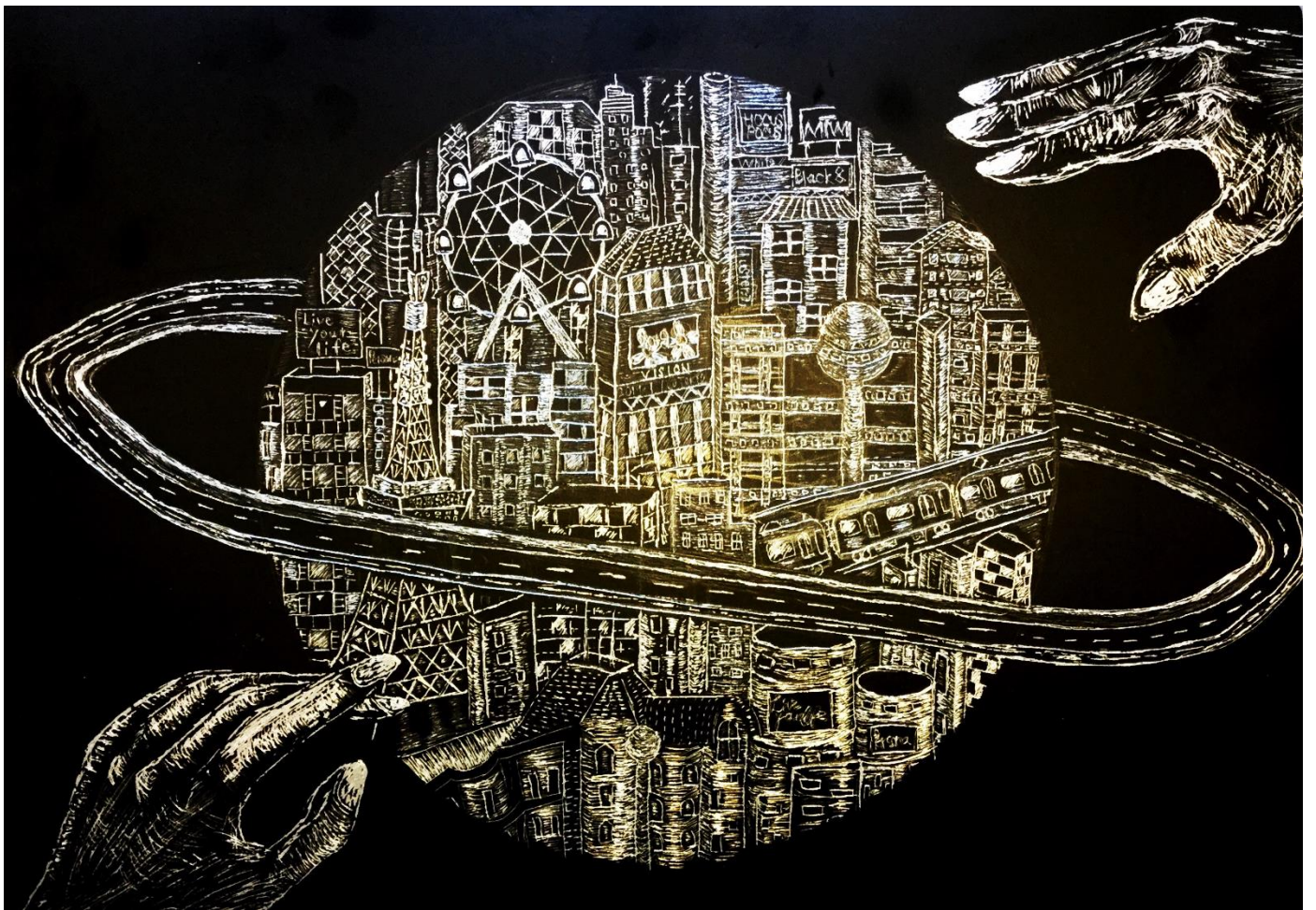


Ｉさんの作品



K さんの作品

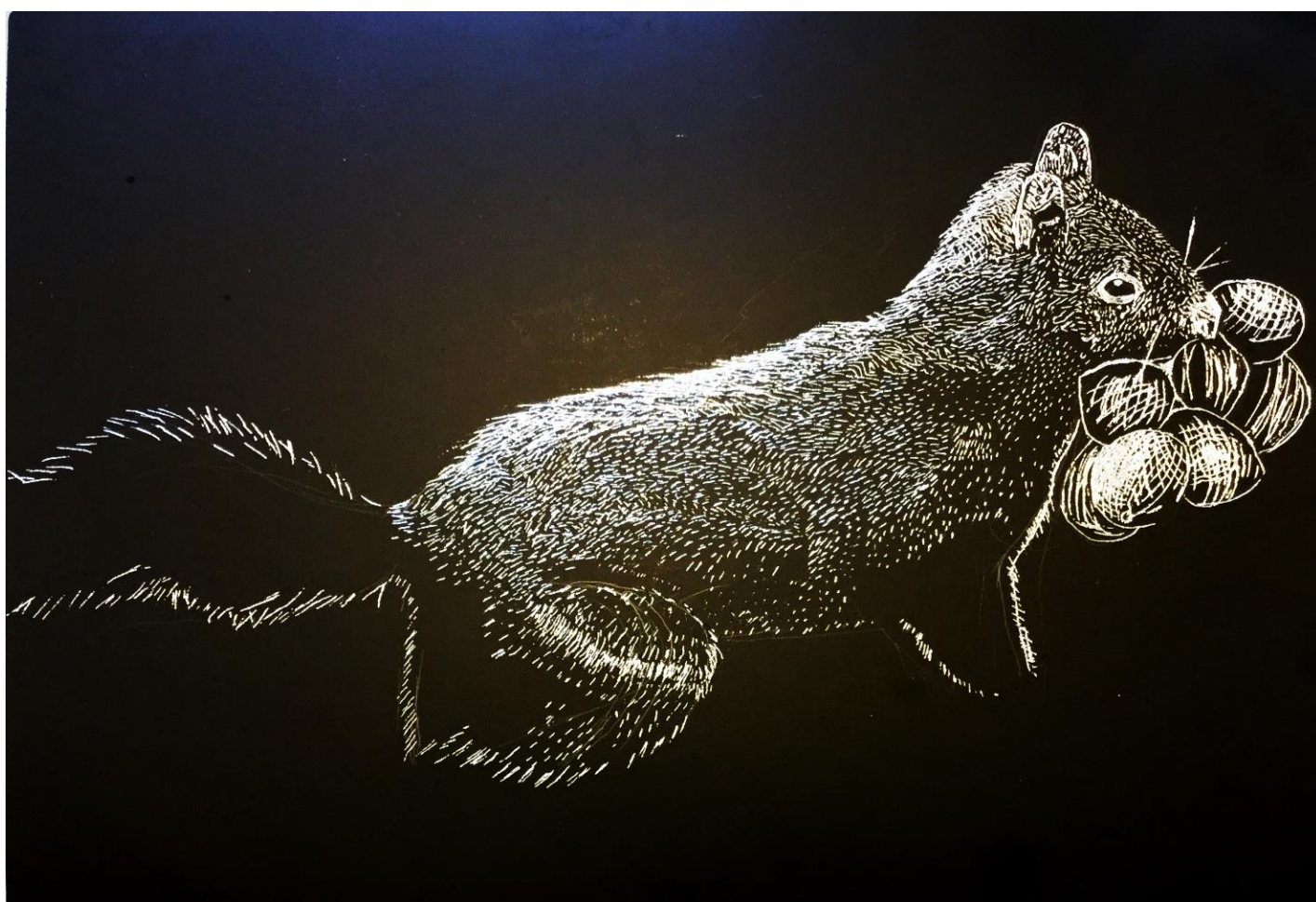




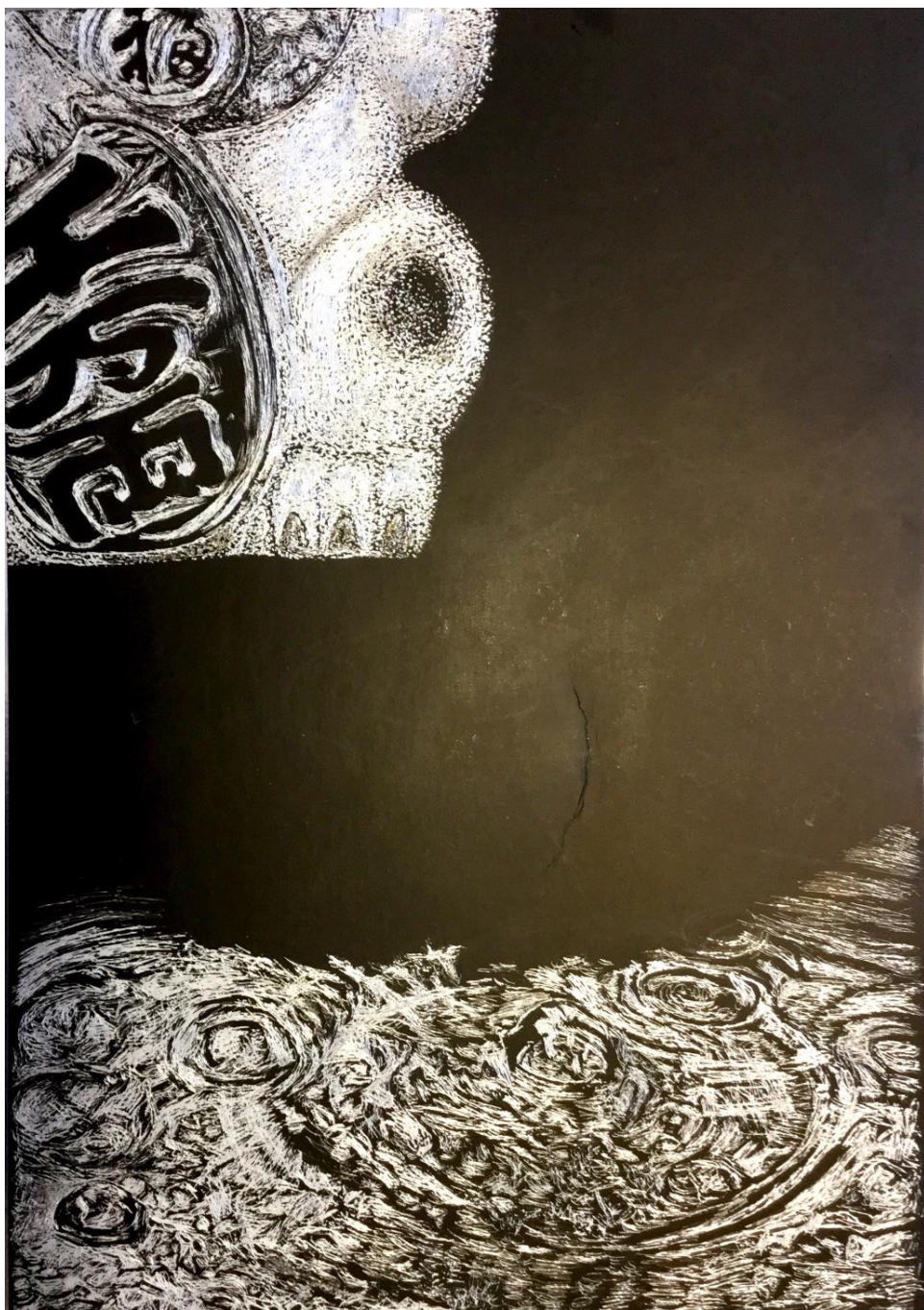
S さんの作品



Tさんの作品



N さんの作品



Kさんの作品



S さんの作品



S さんの作品

「高1 漢詩レポート」

高1の古典の長期休暇に課された、漢詩のレポートです。

教科書や漢詩集から好きな作品を一つ選び、その世界観を絵で表し、鑑賞文を付けました。中国の雄大な風景や、思わずクスリと笑ってしまう日常の光景の中に、人間の心が浮かび上がります。それをうまくとらえることができているでしょうか。

望廬山瀑布 李白

日照香炉生紫煙
遙看瀑布挂前川
飛流直下三千尺
疑是銀河落九天

この詩からはひとすく中国とて國の自然の雄大さ、スケールの大きさが感じられる。日本の滝は、三千尺も落ちるものがあるだろうが、日本の滝に紫煙がわくという点、この廬山というものは、日本によくある、森林に覆われた山ではなく、奇岩に覆われた巨大な岩山というふうなイメージだ。廬山は連峰らしいのが、私たちがイメージするような稜線を描くものではない。むしろ険しいものだ。けれど廬山の様子を見たが、私が想像していた滝とは規模が違った。これは実際に訪れないとわからない。莊嚴さがある。

遠くから眺めると、銀河が落ちるまじかと思ってしまう。なのだが、せめて訪れてみたい。また、様々な国々への意識という点、感興の深さは、ふたつとも國の風土の差により、大きく異なるだろう。

白鷺鷥 李白

白鷺鷥秋水に下り

独り立つ沙洲の傍

白鷺鷥下秋水
孤飛如墜霜
心閑且未去
獨立沙洲傍

孤飛して霜を墜すが如し

心閑にして

且らく未だ去らず

白土が秋の水にひかり下りくる。
ただ一羽飛ぶさまは、霜がふりこくもふた

べりんとしはやく立ちまわす。
ぽつんと砂の中洲のそばに立っている。

この詩は、白土が孤高に秋の外に降り立つところを描写している。

この風景描写の表現から、秋の好まぬ歌人である、若山秋水の短歌

と目には精神を感じる。

李白の詩を讀んでいて、無常観といふ、更には世の中を悲観したような

オチが多いと感じたが、この詩はさうなものでないと思つた。

白土の気高い少女の姿を描写しているのだから、オチと云ふ感じが

以前にも述べたが、アツリワセだ。私たちが王といふだけではないのだなと感

た。何となく、私たちが王といふだけではないのだなと感

た。何となく、私たちが王といふだけではないのだなと感

た。何となく、私たちが王といふだけではないのだなと感

た。何となく、私たちが王といふだけではないのだなと感



香炉峰下、新ト山居草堂初成、偶題東壁

白居易

日高睡足猶慵起

小閣重衾不怕寒

遺愛寺鐘欹枕聽

香炉峰雪撥簾看

匡廬便是逃名地

司馬仍為送老官

心泰身寧是歸处

故鄉何独在長安

鑑賞

老後ののんびりとした生活の風景をよく感じることができて、
このようにくつろいで過ごしている白居易が羨ましいが、

長安に田舎まるごとがなかったことに対する

負け惜しみを感じられ、本当に匡廬が良いと思えてるのは確定ではないと
思った。

うさんの作品

七步詩

七歩の詩

魏曹植

煮豆持作羹

豆を煮て持つて羹と作し

漉豉以爲汁

豉を漉して以て汁と爲す

其在釜下燃

其は釜の下に在りて燃え

豆在釜中泣

豆は釜の中に在りて泣く

本是同根生

本は是れ同じ根より生ぜしに

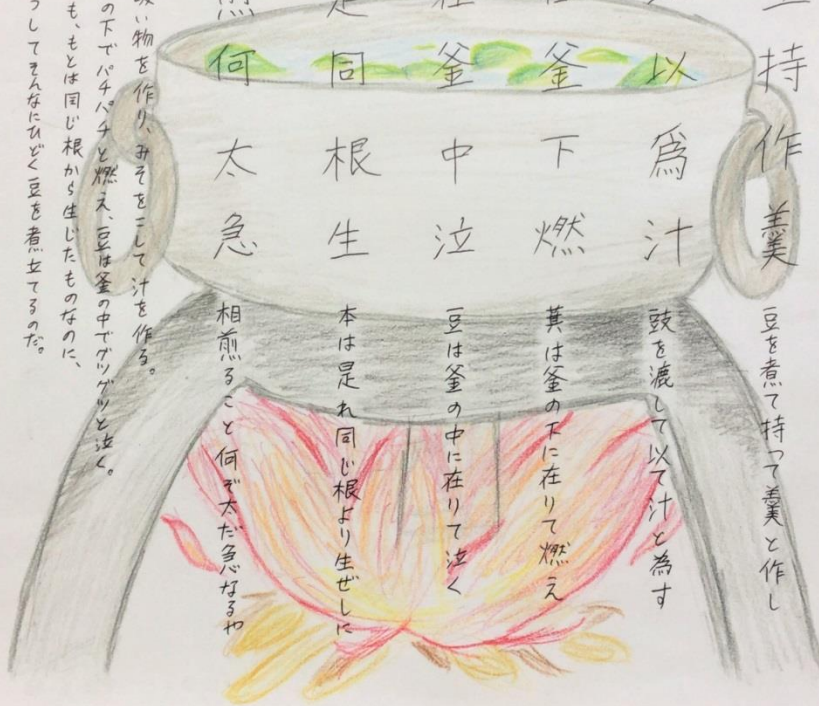
相煎何太急

相煎ること何ぞ太だ急なるや

一豆を煮て吸い物を作り、おそをこして汁を作る。
一豆からは釜の下でバチバチと燃え、豆は釜の中でグツグツと泣く。
一豆からも豆も、もとは同じ根から生じたものなのに、
一豆からよ、どうしてそんなにひどく豆を煮立てるのだ。

金四首、

弟が兄へ向けた詩であり、一豆と豆からに弟と兄とを重ねるという発想が
七歩歩いたばかりで思いつくということかすごいと感心した。
弟はどんなにいい仕打ちを受けても、兄に倣えなければいけないという決まりは
理不尽だと思った。





黃鶴樓送孟浩然之廣陵

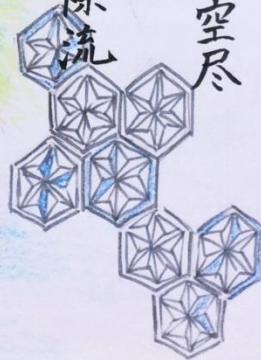
故人西辭黃鶴樓

李白

煙花三月下揚州

孤帆遠影碧空盡

唯見長江天際流



年が離れてゐる李白と孟浩然の二人の友情や別れることへの悲しみが詰まった漢詩だと思ひます。特に転句の「孤帆遠影碧空盡」は、中国の広大な風景と共に、空ほど遠くに行つてしまい、もう会うことが難しいことを想像させられました。結句では、その広大な風景と一人とり残された李白の孤独や哀愁が対比され、より際立つていると感じました。



登高

杜甫

風急に天高くして猿嘯哀し

渚清く沙白くして鳥飛ひ廻る

風急天高猿嘯哀

渚清沙白鳥飛廻

無邊の落木は蕭蕭として下り

不尽の長江は滾滾として来り

無邊落木蕭蕭下

不盡長江滾滾來

万里悲秋常に客と作り

百年多病猶り臺に登る

萬里悲秋常作客

百年多病獨登臺

艱難苦恨繁霜鬢

潦倒新停濁酒杯

艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

訳

風は激しく吹き、空は高く澄みわたり、猿の鳴き声が悲しげに聞こえ、
長江のなみちは水が清く、砂が白く、鳥が輪を描いて飛んでいる。

果てなく広がる木々の落ち葉はさらさらと音をたてて散り、
尽きることのない長江の水は、わきたつように盛んに流れて来る。

故郷を万里も遠く離れて、悲しい秋の季節に相変わらず放浪の身の上で、
生涯を病氣がちに送る身に重陽の節句にただひとり高台に登って来た。

長年の苦勞を重ねて、びんの毛も白くなってしまったのが、うれしく、
年老いて衰え、近ごろは好きな濁り酒さえやめてしまったところだ。

この詩の題である「登高」は、陰暦九月九日の重陽の節句に、肉親
たちがいっしょに某鎮をさして高所に登り、酒宴を開いて必死に酒を
した風習という。しかし、猿の鳴き声や、落葉の音が聞こえることから、
静寂の中を一人佇んでいることがわかる。その矛盾から杜甫の孤独や
望郷の思いがひびくと伝わってきた。

鑑賞文

五十六歳の時に作ったこの詩は、まさに秋の感がいち全聯に句
ご年を重ねたからこそ厳密な詩作がなされた。

「高1 小論文」

中央大学主催

「第18 回高校生地球環境論文賞」

佳作 受賞作品

中3の卒業ノートで取り組んだ
小論文を練り直してコンクールに
応募し、見事受賞した作品です。

海の方こうの環境問題を引き起
こしているのが私たちの “効率的
で快適な” 生活であることを指摘
し、今後のあり方を論じています。

※この論文は、中央大学のHPにも
掲載されています。

消えゆく熱帯雨林

田野 小春

あなたは、あなたの知らないところで野生動物が人間に住処を奪われ、苦しんでいるということを知っているだろうか？ あなたは、あなたが食べている物や使っている物が野生動物を苦しめているということを知っているだろうか？ インドネシア・スマトラ島では、島に生息する動物が減少している。私はそれを知り、もっと詳しく調べたいと思った。何故ならこの問題は日本人にも大いに関係していることであつたからである。

スマトラ島は世界第六位の面積四七三六万 ha をほこるインドネシアの島で、二〇〇種類以上の哺乳類、五八〇種類の鳥類が生息している。このように豊かな自然に囲まれているスマトラ島だが、近年島に生息している動物が急激に減少してきている。I CUN（国際自然保護連合）が定めるレッドリストで一〇段階中三段階目の、絶滅寸前とされるスマトラ島にのみ生息しているスマトラゾウは二〇年で三分の一に減った。同じく絶滅寸前とされるスマトラオランウータンは一〇〇〇年で五分の一程度にま

で減ってしまった。その主な原因は森林伐採による生息地の減少だ。インドネシアではパーム油や木材の生産が盛んで、パーム油を摂るためのアブラヤシのプランテーションの建設や、紙パルプの生産を目的としたアカシアの植林によって、島の熱帯雨林が奪われている。森林の規模は一九八五年を一〇〇%とすると、二〇一二年には半分以上以下になっている。これは地球温暖化の進行にも、動物の絶滅にも繋がる。仮に動物が絶滅しても人間に何も被害は無く、絶滅してもいいと思うかもしれない。だが、それは大きな間違いだ。動物が絶滅するということは、生物多様性が損なわれるということでもあり、それは私達人間にとってもとても深刻な問題なのだ。I C U Nによると、生態系がもたらししているサービス、例えば食料、木材などの資源、水の浄化、気候調節、土壌の形成、災害による被害を小さくするといったものを経済的価値に換算してみると、一年あたりの価値は三三兆ドル（約三〇兆四〇〇億円）にもなる。人間はこれほど多くの恩恵を生態系から受けているため、当然生物多様性の低下は人間にとっても損害となる。だから、人間は生物多様性を守る必要があるのだ。また、二

コラス・スターン氏が二〇〇六年に発表した「スターンレビュー」では、「このまま温暖化が進行すると世界のGDPの五〇％に相当する被害が出る。それを防ぐための投資は今ならGDPの二％ですむ。」と述べられている。実際に、熱帯雨林の破壊は、一五〇％の地球温暖化の進行に関わっている。だから私達人間は、被害を防ぐための投資が高くなりすぎる前に、一刻も早く熱帯雨林の破壊を止めるべきなのだ。熱帯雨林の破壊はどこか遠い国の話で、日本人とは関係の無いことだと思っているかもしれないがそうではない。日本人が破壊していると言っても過言ではないのが現実だ。次はパーム油と日本人の関わりについて見ていく。

＜パーム油のプランテーション＞

パーム油は一九九〇年代からインドネシアとマレーシアで盛んに作られるようになり、今では世界の生産量の八五％をその二国が占めている。アカシアの果肉から摂れる油脂で、比較的安価な上使い勝手が良く、生産性が高い（面積あたり大豆の一〇倍

もの油が摂れる）ため、植物油脂の中で世界で最も多く生産されている。日本でも菜種油に継ぎ、二番目に多く摂取されており、一年間の日本人一人あたりの平均摂取量は四kgにもなる。パーム油が使われているのは、食用油、インスタント麺、パン、マーガリン、冷凍食品、レトルト食品、ドレッシング、ケーキ、チョコレート、スナック菓子、アイスクリーム、石鹸、洗剤、口紅、シャンプー、医薬品、塗料、バイオ燃料などだ。私達の周りには本当に多くのパーム油を使った商品がある。ということは、日本人は知らず知らずのうちに、パーム油を使った商品を買うことで熱帯雨林を破壊しているのだ。しかしパーム油は「植物油脂」との表示しかされない事が多く、使われているのかどうか普通であればわからない。そのため、たとえばパーム油が環境を破壊して作られていると知っていても、パーム油を使っていない商品を選ぶことは難しい。WWFを含む七つの団体は、二〇〇四年に「持続可能なパーム油のための円卓会議」というものを設立し、二〇一一年には持続可能なパーム油の生産と利用ができている商品にRSPO認証マークを付けるという制度を作り上げ、環境に配慮して作っ

たパーム油を選べるようになった。しかしマークを付けてもらうにはまず、「持続可能なパーム油のための円卓会議」に参加しなければならない。今ではその参加団体は一〇〇〇団体にまで到達したが、まだ認知度は低く、それで十分とは言えない。そこで私は、日本政府が国内でR S P O認証マークのような環境に配慮して作られた商品にマークを付ける制度を確立すべきだと思う。また政府は、使用している油の名前を明記する法律を整える、より環境に配慮して商品を製造している企業に対して税金を減らす、または環境を破壊して製造している企業に対して税金を増やすなど、環境を考えた商品作りを促す制度を作るべきだ。これは紙パルプ産業についても言えることだろう。

〈紙パルプ産業〉

紙パルプ産業もパーム油と同じく、一九九〇年代から急激な成長を遂げた。紙パルプの生産のために熱帯雨林は破壊され、アカシアの植林地にされつつある。A P P社

という製紙メーカーは一九八〇年代から紙パルプ生産のために、二〇〇〇万 ha 以上の自然の熱帯雨林を伐採した。それにより絶滅の危機に瀕する野生生物の生息地が減少し、また先住民との紛争も多々起こっている。植林地を開発するために泥炭湿地を乾燥させることで大量の温室効果ガスが排出され、その土地では毎年のように火災が起こり、数ヶ月以上続く場合もある。その場合は火災の煙が周辺の他国へも渡り、人体、交通に様々な影響をもたらしている。WWFや数多くのNGOはAPP社やその社の商品を購入している会社に対し、環境や社会に配慮した生産活動へ転換するように働きかけを行ってきた。それに対しAPP社は度々森林を保護する方針を宣言してきたが、未だに自然林を伐採し続けている。そして非常に残念な事にAPP社が生産した紙は世界中に輸出され、日本でもコピー用紙の四枚に一枚がインドネシアから輸入されているという。日本人はパーム油のみならず、紙類の購入によっても、熱帯雨林を破壊しているのだ。解決のためには、一人一人が環境への意識を高めていくことはもちろん大切だ。しかし企業をどのようにして動かすかも重要な課題である。枝廣淳子

氏は、企業を動かす方法について次のように述べている。

企業や経済、産業界を含め、道德、倫理的なアプローチだけでは動かない人々や組織を動かしていくためには、「それはどのくらい自分たちの役に立っているのか」「それが失われると、自分たちはどのくらい困るのか」をわかりやすく、金銭換算した数字でしめすことが有効なのです。

（枝廣淳子『私たちにたいせつな生物多様性のはなし』かんき出版 二〇一二年七月）

私はこの意見から、企業の多くは自社の利益を最優先に考えるため、環境に配慮して商品を作った方がより会社にとって利益になるということを示せれば、企業は環境に良い商品作りに転換するのではないかと考えた。また、枝廣氏は「フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアの普及にともなって、消費者の声が従来にないほど大きな力を持ち始めています。消費者の意識が変われば、従業員や株主など、

企業にとって重要なステークホルダー（利害関係者）の意識も変わってきます。」とも述べている。企業の商品を買うのは私達消費者であるため、企業は消費者の声を聞き入れざるを得ない。だから私は消費者自身が声を上げていくべきだと思う。しかしそのためには、消費者がスマトラ島の現状と、日本人もそれに関与していることを知らなければならぬ。そのためWWFなどの環境保護団体は、テレビやCM、インターネットなどの様々なメディアを活用して情報発信をしていく必要がある。さらに、スマトラ島の現状や、環境問題について知っている人が友人に呼びかけたり、インターネット上に投稿したりして活動すれば、より効果は上がるだろう。そして現状を知った人から率先して企業に環境に配慮した商品を作るように促したり、環境を破壊して製造している商品を買わないようにしたりして、日本全体の価値観を、環境に配慮して作られた商品が良いというものに変えていく。そうすれば値段は多少高くなっても、企業は売れる商品を作ろうとするため、自ずと商品は環境に配慮して作られたものに変わっていくだろう。さらに、教育の過程で自然や動物と触れ合える場を用意し、幼

い頃から自然を愛する心、大切にすることを育んでいき、少しでも自然を大切にし、環境を考えることの出来る人を育てていくこともひとつの解決策になるのではないだろうか。

インドネシア・スマトラ島の動物の減少は私達日本人が「物」を購入することによって起きていた。私達はそのことをしつかりと受け止め、これから対策を行っていかなければならない。私達は常に自分の行動がどう環境に影響しているのかを考え、環境に配慮した生活に変えていくべきだ。一人一人が出来ることは本当に小さなことかもしれない。だが、その積み重ねは結果的に地球全体の環境保護、そして私達の生活の向上にも繋がるだろう。人間の生活は地球の恵みが無ければ成り立たない。地球を守るということは人間の暮らしを守ることなのだ。だから私達は自分達のためにも、そして未来の人々のためにも地球を守っていかなければならない。

参考文献

- ・『ZEHU 地球データマップ 世界の“今”から“未来”を考える』
(大橋晴夫 日本放送出版協会 二〇〇八年二月二五日)
- ・『私たちにたいせつな生物多様性のはなし』
(枝廣淳子 かんき出版 二〇一一年七月一九日)
- ・WWF ジャパン (<https://www.wwf.or.jp>)
- ・『二〇〇の知識 消えゆく動物たち』
(ステイブ・パーカー訳 渡辺政隆 二〇〇九年八月三〇日)
- ・『子供の科学 サイエンスブック 消えゆく野生動物たち
そのくらしと絶滅の理由がわかる絶滅危惧種図鑑』
(小川雄一 誠文堂新光社 二〇一四年七月一四日)

・『池上彰のニュースに登場する世界の環境問題 ⑥動物の多様性』

(池上彰監修 訳・文 稲葉茂勝 原著者アンジェラ・ロイストン

さ・え・ら書房二〇一〇年十二月)

・パーム油とは？ あぶない油の話 ｝パーム油のことを知るサイト｝

(<http://plantation-watch.org/abunaiabura/>)

・スマトラ島の観光案内ーインドネシアコーナー

(<http://www.indonesia-corner.com/sightseeing/sumatera/>)